

調査団体名	NPO法人 藤前干潟を守る会	団体代表者名	辻淳夫
活動地域	名古屋市 藤前干潟	団体URL	http://fujimae.org/
<活動内容>			
<p>ラムサール条約に登録された藤前干潟は、伊勢湾の奥部、庄内川・新川・日光川河口に広がる貴重な自然であり、渡り鳥の中継地となっている。藤前干潟を守る会では、藤前活動センター、稻永ビジターセンターの業務請負を担うとともに、干潟に集まる四季折々の鳥たちや干潟に生息する生きものの観察会を行っている。</p> <p>干潟沖で発生する青潮が底生生物に及ぼす影響も定期的に観察している。</p> <p>2008年から、庄内川河口の東岸の一部にあるヨシが繁殖する場所にも注目している。ヨシ原および周辺の砂泥地には多様な生物が生息するので生態系の監視を行うとともに、環境学習の場として下記のような活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「スマレづくり」「ヨシ刈り」「地域の昔話」等、地元の元漁師の方の協力により文化、風習の伝承を行う。 ○ヨシ原の生きもの観察を行う。「生きもの見つけ隊」と称し、ヨシ原～干潟の生きものマップづくりも行った。 ○「清掃活動」を行い、ヨシ原の保全に努める。 			
<連携している団体・専門家・自治体など>			
<ul style="list-style-type: none"> ○藤前干潟協議会(産官学民の協働を実践している。これがあってこそ！という実績を積み重ねつつある) ○伊勢・三河湾流域ネットワーク(伊勢湾・三河湾の環境保全) ○日本湿地ネットワーク(日本各地の草の根の保全活動を支え合う。韓国、中国、アジア、世界ともつながる) 			
<今までに行った調査・研究>			
<ul style="list-style-type: none"> ○藤前干潟での底生生物の調査、渡り鳥飛来の調査 ○ヨシ原での生物調査 ヘナタリ、フトヘナタリ(名古屋市レッドデータブック2004で絶滅危惧 I A類)の生息も確認された。 			
<現在直面している課題>			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 庄内川高潮堤防の老朽化による改修工事の計画があり、多様な生物(トビハゼ・ヘナタリ・フトヘナタリ)が生息する貴重なヨシ原がつぶれる危機に直面している。 ○ 青潮の発生により、底生生物が壊滅的な打撃を受けることがある。2009年も2月の調査で、2008年夏生まれの若いヤマトシジミが大量に死んでいる(2008年秋の苦潮被害か？)を確認した。 			
<今後どんな情報が必要か>			
○ヨシ原を保全する専門知識		○ヨシを活用する専門知識	
○研究者との連携		○ヨシ原上部帯の保全を可能にする護岸改修工法	

ヨシ原での生きもの調査

